

新聞は生徒の読みの力を育てるための有効なツールとなる

札幌市立中の島中学校 教諭 横道幸紀

1 今回の授業のねらい

- ① 指導事項にそって単元を構想する指導の実践。
- ② 単元を貫く言語活動の具体的実践。
- ③ 地域の情報を生かした授業の実践。

2 今回の授業の背景

- ① 生徒の語彙量が低下している。

平成23年度 「小中学生の語彙に関する第1回全道調査」より
方言、慣用句、時間や季節に関する語句など、実生活で用いられることが多い語句について定着率が比較的低い傾向が見られた。我々授業者が考える以上に、生徒は語彙量がないことを自覚しなければならない。

- ② 生徒の新聞離れが進んでいる。

別紙資料の通り、生徒の新聞離れは予想以上に進んでいる。新聞の活用によって読みの力と語彙量の向上を図ることができるのでないか。

3 学習指導要領とのかかわり

[第1学年]

〔読むこと（1）〕

カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

[第2学年]

〔読むこと（1）〕

オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。

[第3学年]

エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

これらの指導事項を通してつけたい力

- 1 メディアリテラシー
- 2 語彙量
- 3 情報活用力

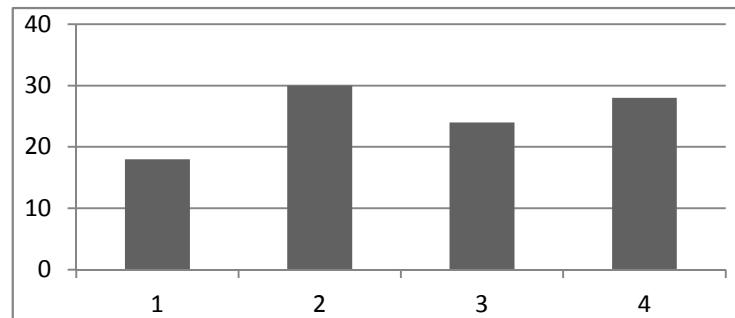
(仮説)

新聞を活用することで
これらの力を身に付ける
ことができる。

資料1 メディアについての調査結果

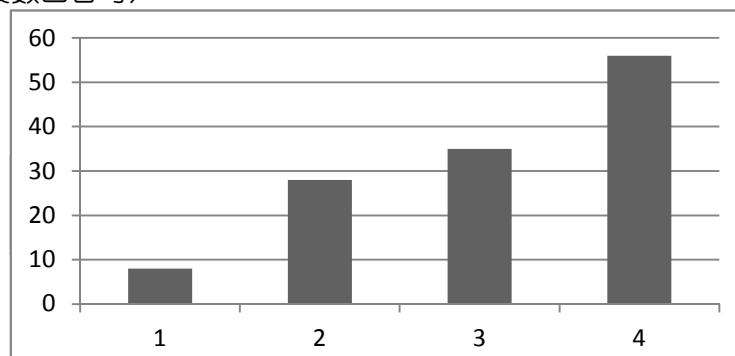
Q1 あなたは新聞をどの程度読みますか？

	1年	2年	3年	計	%
毎日読む	7	12	47	66	18
ときどき読む	40	41	32	113	30
あまり読まない	38	31	19	88	24
まったく読まない	34	39	32	105	28



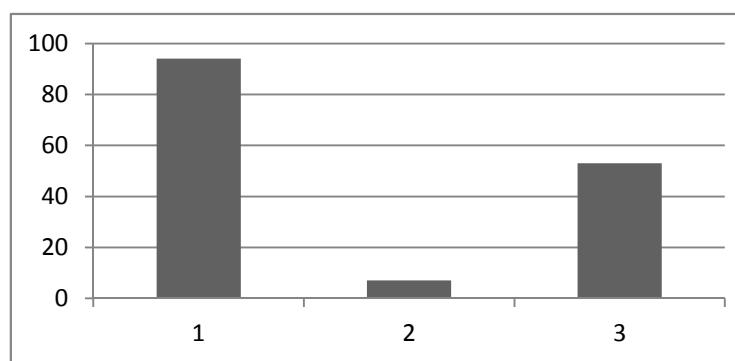
Q2 (読むと答えた生徒に)おもにどの面を読みますか？(複数回答可)

	1年	2年	3年	計	%
政治欄	9	8	14	31	8
社会面	32	29	43	104	28
スポーツ欄	48	36	46	130	35
テレビ欄	69	67	74	210	56



Q3 新聞以外にあなたは何から情報を得ますか？(複数回答可)

	1年	2年	3年	計	%
テレビ	114	113	124	351	94
ラジオ	9	12	7	28	7
インターネット	51	64	81	196	53



資料2 平成22年度「全国学力、学習状況調査」より

国語B 1 「全国新聞」(別紙参照)

出題の趣旨

新聞を読んで、次のことができるかどうかを見る。

- ・書かれている情報を的確に関連付けて読むこと
- ・記事文における表現の仕方をとらえること
- ・記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書くこと

調査結果の分析

設問1

学習指導要領との関連

〔第1学年〕 C 読むこと

イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。

正答率 75.8%

設問2

学習指導要領との関連

〔第2学年及び第3学年〕 C 読むこと

ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。

正答率 50.2%

設問3

学習指導要領との関連

〔第1学年〕 B 書くこと

イ 伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること。

〔第2学年及び第3学年〕 C 読むこと

エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

正答率 52.6%

分析

◎設問1

新聞の構成をとらえさせる指導が必要である。また必要な記事や興味のある記事を集めることができるよう指導することも重要である。

◎設問2

書き手の目的と、それに応じた表現の仕方に注意させる。そのためには、さまざまな文種に触れさせたり、それぞれの文種に応じた表現の仕方の違いについて考えさせることが重要である。

◎設問3

書かれている内容について自分の考えを書く際には、まず内容を正確に理解し、そのうえで、どの部分に興味や関心をもったのかなどを明確に示す必要がある。

言語活動例		イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。				
指導事項		重点化	学習活動	評価規準	留意点 他	時
ア	抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。	「伝統的な技術」の素晴らしさを個人新聞にまとめよう。	「メディアと上手に付き合うために」を読み「テレビ」「新聞」「インターネット」それぞれの特色をまとめること。	それぞれのメディアの長所と短所をまとめることができる。	(指)それぞれのメディアについての別紙資料を用意して補足の説明をする。	1
イ	文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。		○ 各メディアの特色をとらえたうえで、「百年建築 再生に誇り」(道新でワークシート)を通して「匠の技」について理解を深める。	ワークシートの設問に対して的確に答えることができる。	(指)「道新でワークシート」の使い方と設問の趣旨を説明する。	2
ウ	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。					
エ	文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。		「五重の塔はなぜ倒れないか」を読み、伝統的な技術の素晴らしさについて自分の考えをもつ。	伝統的な技術について、自分なりの考えをまとめることができる。	(指)ワークシートを使用して「伝統的な技術」(今に生きる技術)について自分の考えをまとめよう指導する。	3
オ	多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。		◎ メディアの特性を生かして調べる」をもとに「伝統的な技術」についての調べ学習をおこない、個人新聞を作成する。	内容に応じた方法で情報を入手し適切にまとめることができる。	(指)校内に掲示され、1・3年生にも読んでもらうことを意識して作成するよう事前に伝える。	4・5
カ						
関連する[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]	イ(オ)	相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。		新聞記事として適切な文章を書くことができる。	(教)A4版とし、割り付けの線などを印刷した用紙を用意する。	
(国語への)関心・意欲・態度 に関する評価				ワークシートや新聞作成に意欲的に取り組もうとしている。		

※「留意点 他」の記号…(指)指導に当たっての留意点、(評)評価に対しての留意点、(他)他の学習活動のアイデア、(教)教材・教具の工夫

単元指導計画 及び指導の実際

第1時

「メディアと上手に付き合うために」(池上 彰) の学習

- ①池上彰のプロフィールより「ジャーナリスト」「書き下ろし」についての学習

実際には

- ・「ジャーナリスト」「書き下ろし」とともに正しい意味を説明できる生徒はいなかった。

「書き下ろし」→筆者が対象にしたのは中学2年である。でもその割に難しい言葉が使われている。

予想よりも

知っていた生徒は多かった。

玉石混交

正しい意味を知っていた生徒は全体の3~4割程度

- ②「メディアリテラシー」についての学習

- ・「リテラシー」(正しく批判的に読み解く力)を知っている生徒はいなかった。

※今回の単元の最後に、実際に「個人新聞」を作成することを予告する。

- ③「授業に役立つワークシート集」(光村図書)を用いて「テレビ」「新聞」「インターネット」についてそれぞれの「長所」と「気を付けなければならない点」を本文の表現を活用してまとめる。

テレビ

(長所) 同時性 情報量の多さ ねらった以上の効果

(気を付けなければならない点) 取材、制作者によって必ず編集されている点

新聞

(長所) 一覧性 いつまでも取っておける

(気を付けなければならない点) 編集者の扱いによってニュースの扱いが変わる点

インターネット

(長所) 情報を早く知ることができる だれでも気軽に発信できる

(気を付けなければならない点) 悪意をもった人の虚偽の情報などが混じっている点

- ④まとめたものを発表する。(挙手による発表)

それぞれの項目について、挙手をして発表したものについては、的確な解答を述べることができた。

予想よりも時間がかかった。キーワードをピックアップする技術の習得が必要

- ⑤それぞれについての具体例をワークブックの資料などを用いて考える。

- ⑥次時は「道新でワークシート」に取り組むことを伝える。

第2時

「百年建築 再生に誇り」(道新でワークシート)の学習

①前時の振り返り 新聞の「長所」「気を付けなければならない点」の確認

②「折りたたみ式でごみ捨て便利に」(新聞でホップ)の学習 (導入)

「蛇腹式」の意味：写真のゴミステーションの構造をとらえたうえで蛇腹式の意味を発表する。

- ・取っ手を上にあげて閉めるか、下におろして閉めるか理解できない生徒が多かった。
- ・蛇腹式という言葉に初めて出会う生徒がほとんどであった。

玉石混交よりも難しい？

实物を示す

「蛇腹式」の品物を例にして補足の説明を行う。(例 アコーデオン、電車の連結部)

③ゴミステーションの利点を三つ発表する。

④メディアリテラシーに基づいて「公平な記事」について考える。

この記事をもっと公平にするには？



製品の短所も載せるべき

他に 梁 マサカリ
棟札 のみ 3K
費用対効果 などが
わからなかつた。

⑤「百年建築 再生に誇り」(新聞でステップ)の学習

記事に登場する二人の関係は？

実際には 「師匠と弟子」という解答が多かった。「棟梁」という言葉を知らない生徒がほとんどであった。

くぎを使わないのでどうやって組み立てるの？

筆者の思いを読み取る

父を誇りに思う

技術を後世に伝える

実際には「木組み」の方法を知らない生徒がほとんどであった。

伝統の継承→「五重の塔はなぜ倒れないか」へのつながり

⑥「百年建築 再生に誇り」の記事について感想をまとめる。

「古民家の解体・再生は大工にとって学びの場」「大工の喜び」「仕事の価値」などのキーワードをもとに「匠の技」への理解を深める。

ワークシートに取り組んだ生徒の声

記事の言葉が思つ
たより難しかった

新聞の対象は一般の社会
人 社会人向けの言葉

新聞を読むことは
語彙を豊かにするこ
とにつながる

⑦次時の予告 「ジャンプは『五重の塔はなぜ倒れないか』」

第3時 「五重の塔はなぜ倒れないか」の学習

①前時の振り返り 伝統的な建築技術「匠の技」が現在にも通じるものであることを確認をおこなう。

②難しい語句の学習 教科書 P86, 87 「注」にある 19 個の語句を中心に意味の確認をおこなう。

西岡常一氏～「ものづくりの知恵」
門（かんぬき）～「オツベルと象」

③疑問の共有と解決

心柱一本の不安定な構造である五重の塔がなぜ大地震や強風に耐えうるのか？

「木のしなやかさ」「差し込み接合」「重箱構造」「心柱の門作用」といった構造が「免震構造」となっているから。

④自分の考えをもつ

五重の塔の技術は再認識され、現代の最先端の技術にもいかされている。

例) スカイツリーの心柱構造 など

生徒の活動として
実際に箱を積み重ねたものを揺らすなどの実験をおこなった。

古代の「匠」の技術が現代の最先端の技術に大きな影響を与えていたことへの自分の考えをまとめる

⑤次時の予告 「個人新聞」を作ろう。～校内掲示することもあわせて予告する。

第4時 「調べ学習」をおこなう。

テーマは「今に伝わる昔からの技」 学校図書館を活用して調べる。

生徒が実際に活用した書籍（例）

「民家のなりたち」川島宙次著 小峰書店 「木材加工 作り方と工具の使い方」ポプラ社
「法隆寺の建築」浅野清著 小峰書店 「しょうゆの絵本」農文協
「和紙の絵本」農文協 「豆腐・納豆」松本美和著 金の星社 など

第5時 「個人新聞」を作る。

①新聞の作成方法について～小学校での既習事項のため確認程度とする。

A4 版の市販の割り付け用紙を使用する。

②校内掲示をすることの意味を考えさせる。

今回の学習を経験していない 1, 3 年生にもわかるように書く。

③メディアリテラシーの学習を生かした新聞とはどのようなものかを確認する。

④新聞を作成する。

実際には大半の生徒はこの時間内に完成できなかつたため
家庭で完成させて次時に提出するよう指示した。

成果と課題

1 ねらいに関して

①指導事項にそって単元を構想する指導の実践

本来「読書教材」である「五重の塔はなぜ倒れないか」について、今回はワークシートを活用しながら「説明的な文章の読解」を目的として授業実践をおこなった。



多くの生徒は「伝統的な技術」への自分なりの考えを持ち、「個人新聞」を通してそれをまとめることができていた。しかし、学習を展開する中で「あれもこれも」と盛り込みすぎた感が否めず、もう少しシンプルに構想をまとめるべきであった。

②単元を貫く言語活動の実践

イ〔説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること〕を言語活動例として設定した。具体的には、「個人新聞」の作成を言語活動として取り入れた。



単元の導入時に「個人新聞」の作成について予告した上で、指導を展開した。単元の教材の特質からみても個人新聞は特段無理な設定ではなく、また新聞の作成について小学校での既習事項であることもあわせ、調べ学習から新聞の作成に至るまで滞りなく作業を進めることができた。

③地域の情報を生かした授業の実践

地域の情報を用いた教材あるいは補助的な資料を活用した国語の授業実践を試みることにした。そのためのツールとして「道新でワークシート」を使用した。



「道新でワークシート」は道内各地の情報をなるべく網羅する形で編集されており、これを活用することで、北海道についての情報に触れながら国語の学習に取り組むことができた。

2 仮説に対する検証

(仮説)

新聞を活用することで、メディアリテラシー・語彙量・情報活用力を身につけることができる。



(成果)

新聞、そして新聞をもとにして作成されたワークシートは特に「語彙量」の向上に関して大変有効なツールであった。

(課題)

新聞が活用できる教材について、学年や指導領域などさらに多様な活用ができるよう、開発を進める必要がある。